

新型コロナの年代別感染数と米食の相関分析

株式会社ライステック
代表取締役飯沼一元
2022/6/15

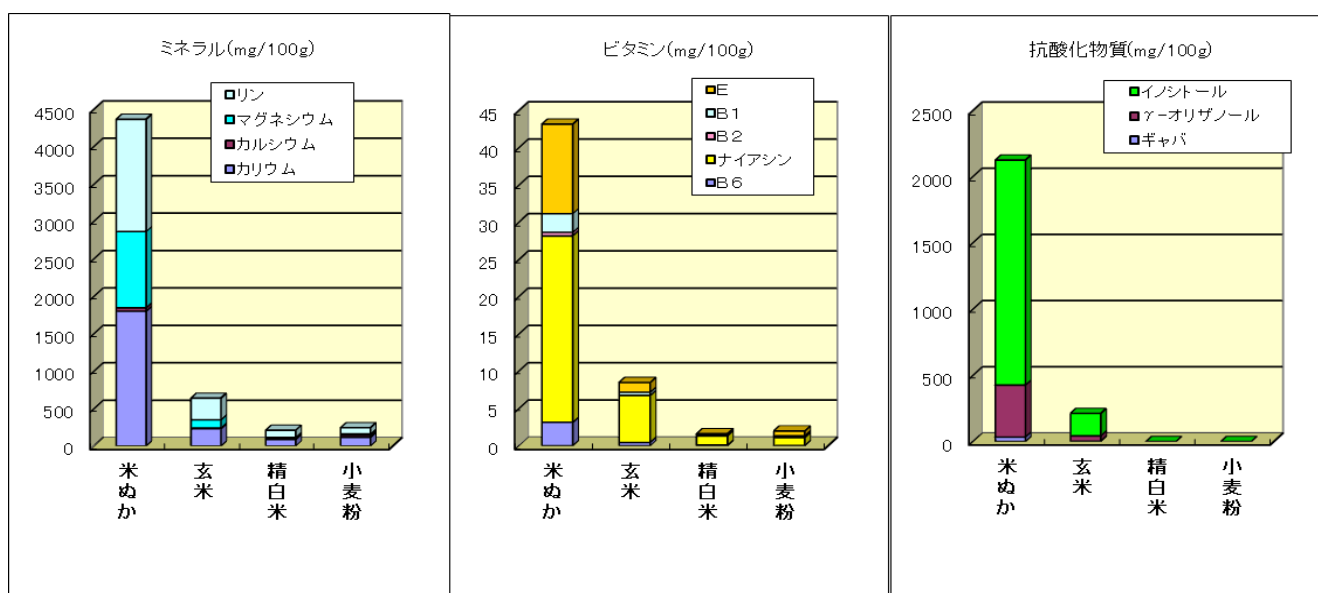
新型コロナ (Covid-19) では IT の普及により人類史上初めて地球規模での疫学統計データが集計された。その結果、**欧米の 100 万人当り感染者数はアジアの 10 倍以上も多い**ことが明らかになった。その原因について、キス/マスクをはじめとする生活スタイルの違いなどの定性的な説明やマイクロ医学的視点からの研究はあるが、マクロ統計的観点からの研究は皆無である。

筆者らは「**医食同源**」という健康の規範に則り、「主食」と「感染」の相関を統計分析し、**感染者数は米消費量と強い負の相関を示す**ことを明らかにした。つまり、**欧米の主食は麦、アジアの主食は米という主食の違いが、10 倍以上の大差を生んだ原因である**ことを突き止めた。

一方、**玄米食者は腸内細菌が良く免疫能が高まる**ことが知られていることから、米食者の方が自然免疫能が高くなるために、感染耐性が高まるという因果関係が示唆される。

日本の**年代別感染者数**は 20 代が最も多く、高齢化するにつれて減少することが知られている。

これは、若年層の方が生活のアクティビティが高く、外出や交流で対人接触機会が高いためと思われるが、統計的に調査した例は見当たらない。一方、農水省の統計によれば、日本の一人当たり米消費量は戦後の 50 年で半減している。従って、生涯米消費量は若年層ほど少なくなる。この傾向は台湾にも当てはまるが、韓国はかなり違っている。そこで今般、**年代別平均米消費量と感染者数の相関を日本、台湾韓国について分析した**。その結果、**2022 年 5 月時点で、10 万人あたり感染者数の決定係数 R2 は日本が 0.97、台湾が 0.87 と極めて強い負の相関があることが判明した**。なお、韓国については R2 が 0.04 と低くなった。これらの結果は 50 年以上の長期に亘る米消費量の経年変化がコロナ感染に影響している可能性を示唆する。



この図は米や小麦粉に含まれる 100g 当たりの主な機能性栄養素（ミネラル、ビタミン、抗酸化物質）を比較したものであるが、米ぬかには 10 倍以上含まれている。

年代別コロナ感染者数と米消費量

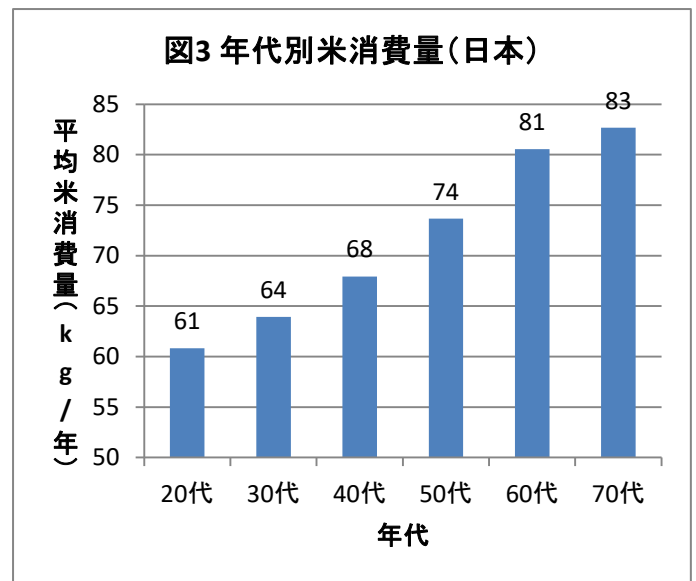
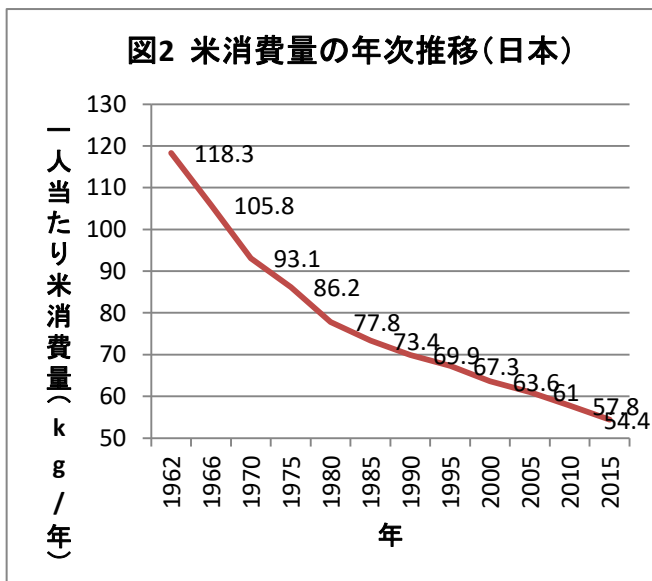
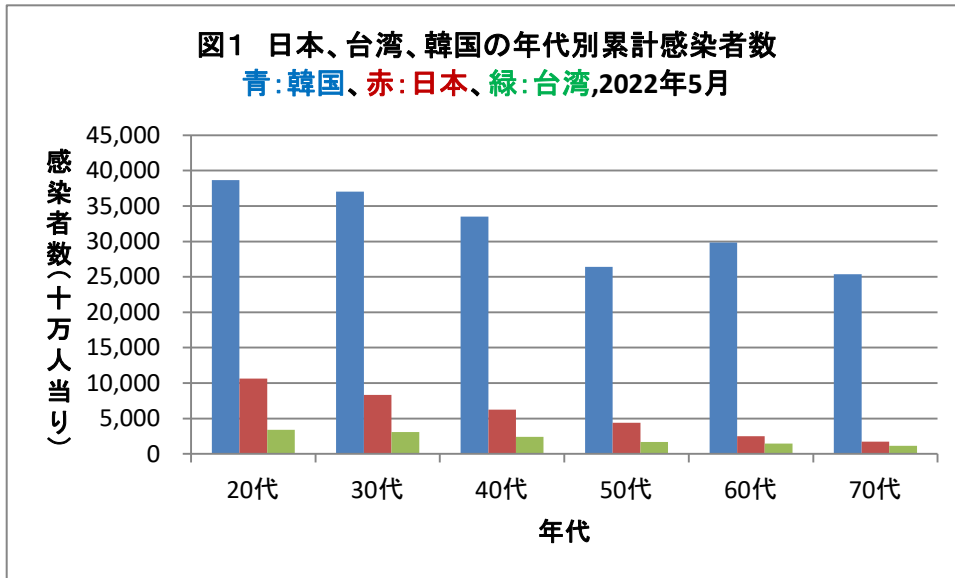


図3は図2に基づき一人当たり生涯米消費量を算出したもの。例えば20代は2000年以降、60代は1960年以降2020年までの累積米消費量(kg/年)を示す。

図4 台湾の米消費量の年次推移

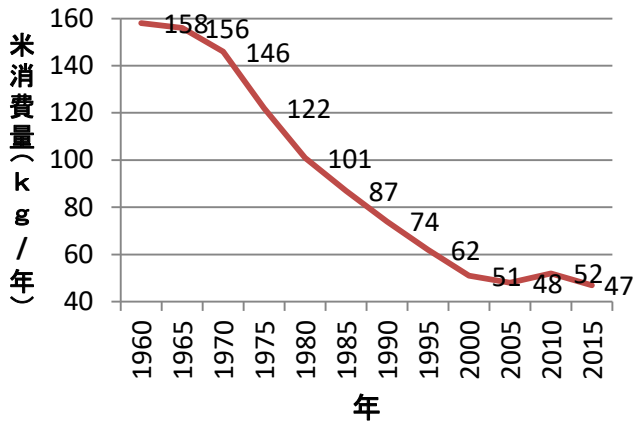


図5 台湾の年代別生涯平均米消費量

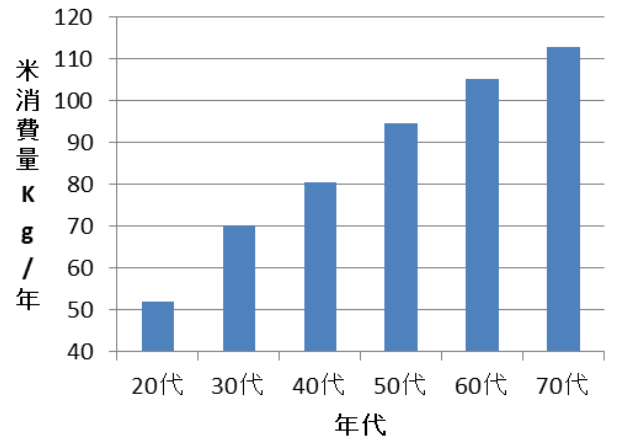


図6 韓国の米消費量の年次推移

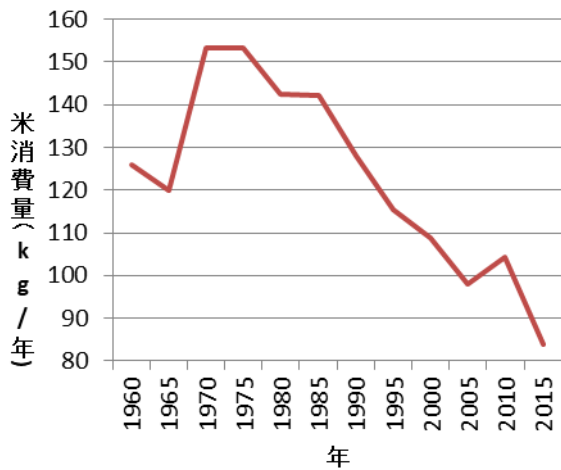
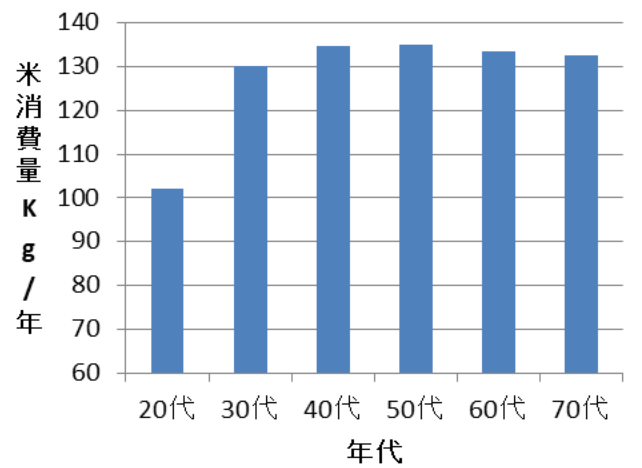


図7 韓国の年代別生涯平均米消費量



年代別コロナ感染者数と米消費量の相関

図8 日本の年代別感染者数と米消費量の相関(2022年5月)

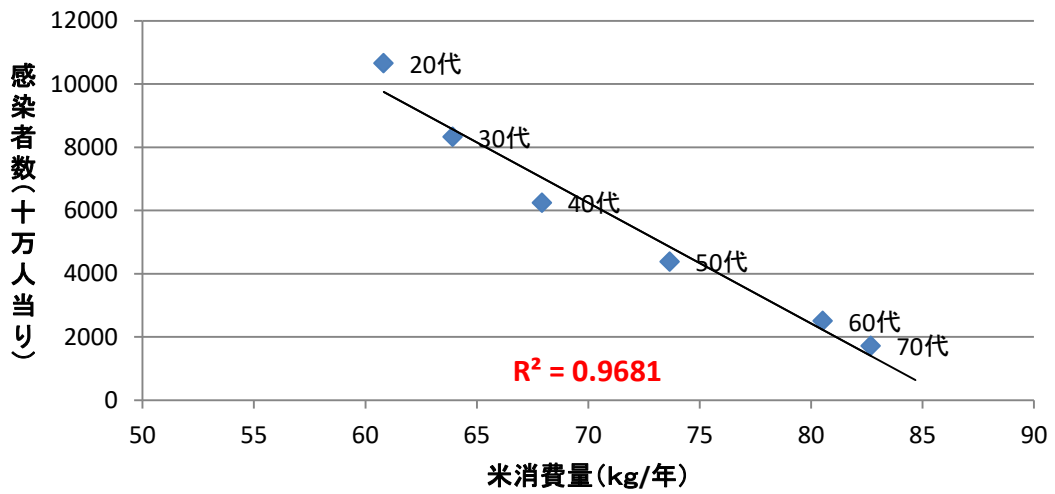


図9 台湾の年代別感染者数と米消費量の相関2022年5月

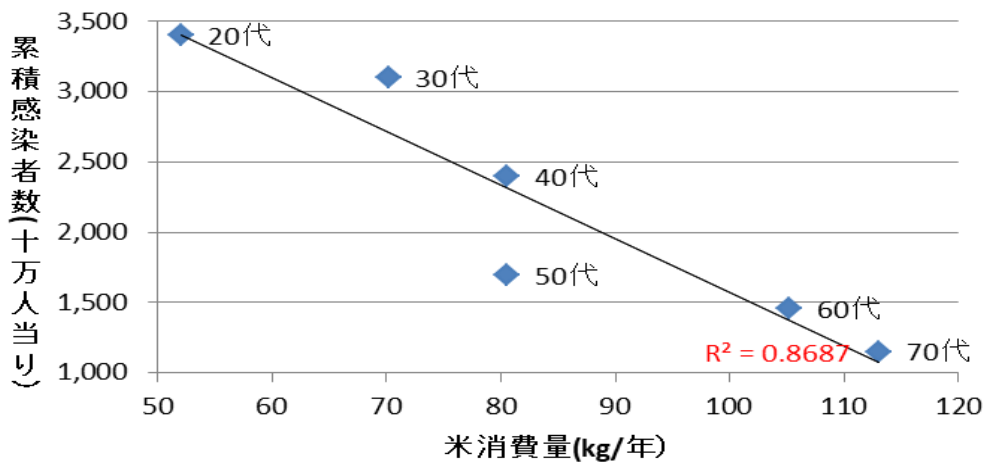


図10 韓国の年代別感染者数と米消費量の相関 2022年6月

